



北川正恭審査委員長からも、エールをいただきました

ローカルマニフェスト大賞最優秀賞を受賞 よこはま自民党が全国の議会の頂点にふたたび

11月11日、第17回マニフェスト大賞受賞式典が六本木ヒルズで今年も開催され、ローカルマニフェスト大賞議会・会派部門で自由民主党横浜市支部連合会 横浜市会自由民主党・無所属の会の「マニフェストを起点とした新たな市民との政策形成 ~DECIDIM の活用によるマニフェストサイクルの進化~」が、全国の地方政治にかかわる3133件の応募の中からローカルマニフェスト大賞最優秀賞を受賞しました。

全国の地方議会や会派、自治体、首長、政治関連市民団体などが参加して多くの素晴らしい政策の中から選ばれる日本最大の政策コンテストがマニフェスト大賞です。よこはま自民党としての最優秀賞は第9回に続いて2回目の受賞となりますが、黒川勝市議にとっては、第11回大会で議員個人の部で最優秀賞を受賞しており、今回が三度目の最優秀賞授賞となります。

素晴らしい政策や取り

組みが地方自治系の大学教授やマスコミ関係者、政策シンクタンクなどによる審査委員会から評価されて、全国的な注目を集めることは、とかくネガティブなことばかり取り上げられがちな地方議会や議員にとってはありがたいことです。

よこはま自民党の取り組み

昨年の5月、2050年カーボンゼロを見据えて『横浜市脱炭素条例』が議員提案条例として制定されました。条例制定を主導した横浜自民党は、条例の趣旨に基づいて『横浜みらい創生プラットフォーム』というウェブサイトを立ち上げ、市民から具体的な政策を提案してもらい、議会の場で議員が市民から提案された政策を取り上げて、予算化に繋げていくという流れを、民間企業との共同実証実験という手法で横浜国立大学などの協力を得て実践しました。

小学校への太陽光パネルと蓄電池の設置、脱炭素モデル地区の設定、新設のごみ焼却プラント省エネ再エネ化などがさっそく具体的な成果として令和4年度予算に計上されました。最近はよこはま自民党の政策集の策定に活用されています。

市民の声を政策に生かすとは

受賞にあたって横浜自民党の黒川勝政務調査会長のコメントは以下の通りです。「昨年夏の横浜市長選挙は私たちには厳しい結果でした。その半年前、IR施設の賛否を問う住民投票条例を私たちは否決しました。依存症や青少年への悪影響といったイメージが先行する中で、大きな税収を生み出し、観光や雇用にも大きく貢献する施設の是非を、詳細もわからず市民に問うのは拙速と判断したからです。

イメージだけでイエスカノーかの結論を出すことの危険性から市民を守るのは、住民から選ばれた議員による、議会における真摯な議論です。そのために市民の考えや意見を集約し、議会での議論を政策に反映させて、横浜市の将来を築くことが、横浜市会の最大会派でもある私たちの矜持です。そのことが評価され、新たな自信をいただいたことに感謝いたします。」



山下正人幹事長とともに受賞登壇



黒川勝政調会長の
受賞記念スピーチ

4年前の『愛する金沢再生プラン ver.4』の振り返り

政策その1 | さまざまな地域の交流拠点で活躍する人材の交流を進めます。

地域交流

●これまで何をしてきたの？

学校の地域交流拠点は、学校運営協議会に地域の町内会の役員さんなどに加わっていただき、さまざまな学校運営のお手伝いをいただけるようになりました。横浜市や金沢区の助成金を受けて地域から自発的に生まれた多世代交流の拠点が生まれ、地域のあらゆる人たちの交流の核となっています。



●これから何をどうするの？

クラブ活動の指導者に地域人材を活用して中学校・高校の部活を活性化します。多世代交流の拠点を商店街の空き店舗や空き家に多数展開します。子供たちを地域で見守り虐待やいじめの重篤化を未然に防ぎます。乳児を抱える母子のための災害時福祉避難所を検討・整備します。

クラブ活動の指導者を地域に求め委ねる政策は、令和5年度から実施されることになっています。

金沢区西柴のさくら茶屋で始まった地域交流の拠点は区内5か所に広がり、閉園した保育園を譲り受けてママたちが自主的に運営する金沢区ママの『ルンビニーつながりの庭』も新たな拠点として生まれました。

乳児を抱える母子のための災害対策としては、母子災害救助ガイドブックを提案しており、若いお母さんと乳幼児が安心して避難できる体制づくりの検討が進んでいます。

新たな大都市制度は、これまでの『特別自治市』から『特別市』と名称を変えて、全国の政令市の中でも『特別市』の実現を目指す各都市と連携して法制化を国に対して求めています。

今年の8月には『横浜・川崎・相模原指定都市サミット』を横浜市役所で開催し、自民党の3市の市会議員の前で『特別市の実現のために』と題して福田紀彦川崎市長に基地用講演をしていただき、パネル会議では黒川勝市議もパネリストとして、実現に向けての国会議員に対して政策への理解を訴える必要性などを話しました。

政策その2 | 新たな大都市制度の確立と市から区への権限移譲を進めます。

権限委譲

●これまで何をしてきたの？

大都市制度特別委員長として『特別自治市構想』の策定にかかり国の地方制度調査会にも働きかけるとともに自民党指定都市市会議員連盟などを通して他都市と課題や問題意識を共有しました。教職員給与は財源・権限とも、都市計画の整備・開発・保全や災害救助の権限なども県から横浜市に移管されました。



●これから何をどうするの？

神奈川県との調整会議を開催し、かけ対策や河川管理、私立幼稚園の認可、医療計画の策定など、横浜市が一元的に管理したほうが分かりやすい権限は速やかに県から横浜市に移譲してもらいます。また、市から区への分権を進め区の裁量権限を拡大します。

政策その3 | 横浜市会の政策実現の手法を全国に広め地方創生を進めます。

議員改革

●これまで何をしてきたの？

8年間で18本の議員提案条例を制定し議会による条例制定の流れを定着させ、 Manifestoの発信→政策の実行→結果の検証→次のManifestoへ、というManifestoサイクルによる政策実現や政策の進化を定着させ、議会の政策発信力を高めました。



●これから何をどうするの？

横浜での成功事例を全国の仲間の議員に伝えるとともに、全国の成功事例から横浜で取り入れられる政策を提案・実施していきます。また、新市庁舎への移転をきっかけに市民と議会の距離を縮め、市民に誇れる議会や議員を創ります。



新たな市庁舎では、充実した議会図書室に、全国の議会から視察する議員が絶えず、横浜型の議会図書室が全国に増えつつあります。

議員提案の条例制定も全国に広がっており、横浜市中小企業振興基本条例や財政責任条例、脱炭素条例などは他都市にも広がっています。

コロナ対策も踏まえたオンライン議会は、横浜市では金沢区の議員団会議から始まりました。常任委員会や特別委員会のオンライン実施は黒川勝議長によって制度化され、全国でも広がっています。

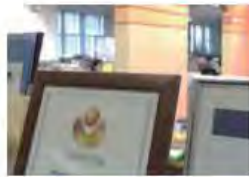
黒川まさる市議の金沢区版マニフェストを検証・報告します。

政策その4 金沢区内で頑張る中小企業・商店などを徹底的に支援します。

経済育成

●これまで何をしてきたの？

黒川まさるが発案した横浜型地域貢献企業認定制度や横浜市中小企業振興基本条例は定着し、地域や社会への貢献に熱心な中小企業が増え、最近では横浜市からの仕事の大半は地元企業に発注されています。LINKAI金沢やAozora Factoryといった産業団地の新しい動きや次世代の経営者間の連帯が生まれています。



●これから何をどうするの？

事業の承継・人手不足・財政的な不安などの解消、販路の拡大・新規事業・他社との連携などへの挑戦、守りと攻めの中小企業戦略を国とも連携して、新たに政策・仕組み・制度・規制緩和などを提案し実行していくとともに、産学官の若い力のネットワークを応援します。

黒川勝市議が実行委員長を務める『金沢八景シーカヤックレース』も今年度は再開し、横浜市内外から多くの参加者を集めて開催できました。

大河ドラマと連携した金沢区内の北条氏ゆかりの寺社などのウォーキングイベントや金沢区の魅力づくりや発信も横浜金沢観光協会がしっかり行ってくれました。

日本の感染症対策のルーツと言える長浜検疫所1号停留所の保存運動も野口英世顕彰会とともに厚労省や横浜市と折衝を進め、金沢区内での移転保存の目途がつかしました。

政策その5 横浜市の体験型観光の拠点を金沢区と位置付けます。

観光振興

●これまで何をしてきたの？

金沢八景協定によって交通事業者・観光事業者・大学などが連携して金沢区の観光振興を進める体制が出来るとともに横浜市の南の玄関口金沢八景駅の利便性が高まりました。金沢区観光協会は専従職員が拡充され区役所の観光関連予算も増加しています。



●これから何をどうするの？

八景島をはじめ、再整備される南部市場やベイサイドマリーナの大型商業施設には積極的に外国人・国内外・首都圏の観光誘客を進めてまいります。スポーツツーリズムや歴史体感ウォーキング、海洋レジャー、グルメ・食育・地産地消など横浜市の体験型ツーリズムのメッカとしての金沢区を提案・創出します。



政策その6 人々が集い、しあわせな暮らしを実感できる金沢区を創ります。

人口対策

●これまで何をしてきたの？

人口減少対策に取り組む委員会の設置を議会に提案し、郊外部活性化特別委員会が生まれ、調査・研究・議論が始まりました。並木のマンモス団地の再生、丘の上に広がる一戸建ての住宅街の高齢化対策として、バスルートの見直し、地域包括支援や在宅介護の円滑化、若者の回帰などの政策が求められています。



●これから何をどうするの？

金沢区内のそれぞれの地域の特性に応じて、お年寄りが安心・安全・元気に暮らせるように、また若い世代が引っ越してきてくれて楽しく子育てができるように、まちづくり協定の改正・規制の緩和・新たな政策などを打ち出し推進してまいります。



富岡西地区での『とみおカート』の実証実験、釜利谷や六浦地区での新たなバスルートの実証実験、コミュニティサイクルの郊外展開など、丘の上の一戸建て住宅街から駅や商業施設や医療施設などへの多様な移動手段の政策が進められています。

人口減少対策としては子育て世代が金沢区や横浜市を引っ越し先に選んでもらえるよう、小児医療費の無償化、中学校給食、育児休暇取得の推進、若い世代向けの団地再生など、横浜自民党として新たな政策転換も図り、総合的に進んでいます。

■愛する金沢アンケート2022■

みなさまの声を黒川勝に聞かせてください。

横浜市民のみなさまの声を横浜市政に反映させるためには、新聞・雑誌やテレビの情報よりも皆さんからのナマの声を聞かせていただくことが大切です。地域のことは地域のみならず一緒に考える、そんな政治の実践のために以下の質問について、当てはまるものにチェックをいれてご返送ください。

Q1. 郷土愛について・・・金沢の好きなところはどんなところですか？

- 豊かな自然 中世以来の史跡 病院や福祉施設の充実 整備された教育環境 子育てしやすい
交通の便が良い 市民活動に参加しやすい 近所付き合いがしやすい その他 ()

Q2. 高齢者福祉について・・・高齢者に居られる行政サービスは何ですか？

- 老人ホームや老人保健施設 ショートステイ デイケアサービス 健康を維持する運動施設
高齢者雇用の充実 生きがいの持てる社会参加情報 その他 ()

Q3. 教育について・・・初等学校教育に対してどんなことを望みますか？

- 個性・創造性を育む 授業時間を増やす 親や地域社会との交流や連携 道徳や公共心を育む
情熱指導ができる教員の採用 活発なスポーツや部活動 英語教育 ICT教育の充実
不登校児を減らす その他 ()

Q4. 女性の社会進出、子育て支援、少子化対策に必要なことはどんなことですか？

- 保育園を増やす 子育てアドバイスなどのケアの充実 育児休暇など企業の制度強化
減税や支援金などの経済援助 女性の社会復帰支援 在宅勤務やテレワークの定着
父親が子育てに参加できる社会の環境づくり その他 ()

Q5. 防災対策について・・・どんなことを知りたいですか？

- 耐震補強の検査や工事の助成制度 広域避難場所や一時退避場所 非常食などの備蓄場所
地域の防災訓練の情報 地震が起きた時の行政の支援体制 その他 ()

Q6. 駅前の市街化対策について・・・どんな駅前の再開発を望みますか？

- 公共サービスの出先機関 駐車場・駐輪場 幼児保育施設 ショッピング機能の充実
アミューズメント施設 文化芸術施設 再開発は必要ない その他 ()

Q7. これからの横浜市会議員に期待する分野はどんなことですか？

- 高齢者福祉 若者対策 子育て支援 障害者福祉 教育政策 中小企業支援 雇用政策
スポーツや健康 文化芸術政策 国際化への取り組み 環境問題や循環型社会への取り組み
財政健全化 行政や市長の監視機能 区への権限移譲 行政や社会のデジタル化 人口減少対策
その他 ()

このアンケートはこのページを切り取り黒川まさる事務所へFAXを送っていただくか、右の二次元バーコードをスマートフォンで取り込み、同じアンケートに答えていただきGoogleフォームから送信してください。5分程度で簡単にできます。



山下正人・草間剛両市議と
チーム脱炭素よこはま自民党



久々の横浜マラソン
42.195キロを完走
4時間29分00秒

LINE公式アカウントを始めました。
黒川まさるの政策や活動を発信します。ぜひ登録をお願いします。

LINE 公式アカウント

友だち募集

LINEの「友だち追加」から、ID検索するかQRコードをスキャンしてください



市民に開かれた、わかりやすい政治を目指す、黒川まさる横浜市会議員に対する期待、要望、激励、メッセージなどをお寄せください。
いただいた連絡先は、返信以外には使用いたしません。

お名前・ご連絡先

返信 FAX 045-786-4310 または masaru-k.net@hb.tp1.jp